

## 日本航空医療学会より基地病院等へのアンケート調査結果

日本航空医療学会

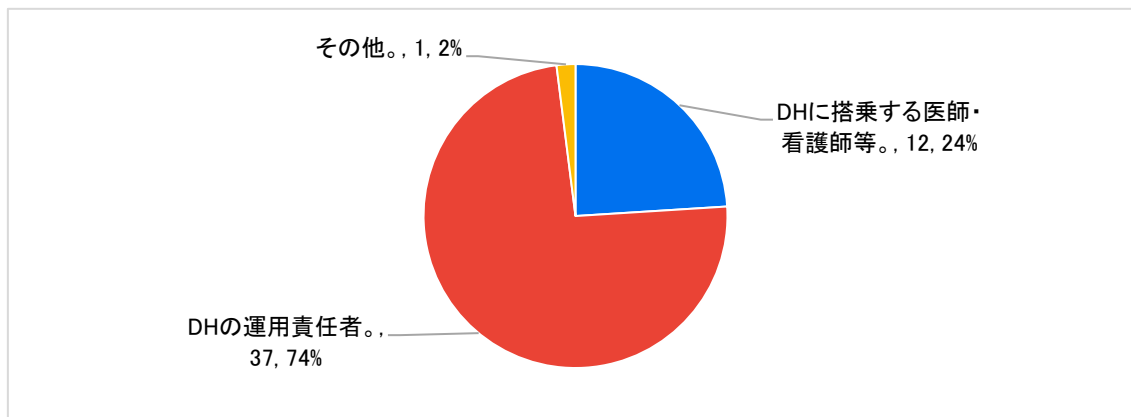
1. 目的: 福岡和白病院の事故後の基地病院等の状況に関連するアンケート調査
2. 方法: 20250428～0518 まで、全国のドクターヘリ(以下 DH)基地病院およびヘリコプター航空医療搬送を行っているその他の組織へ Web 調査を行った。
3. 結果: 基地病院(厚労省 DH 導入促進事業補助金の対象)46 力所、ヘリコプター航空医療搬送を行っているその他の組織(福岡和白病院を含む)4 力所の計 50 力所より回答があった。

## ・回答施設一覧(順不同)

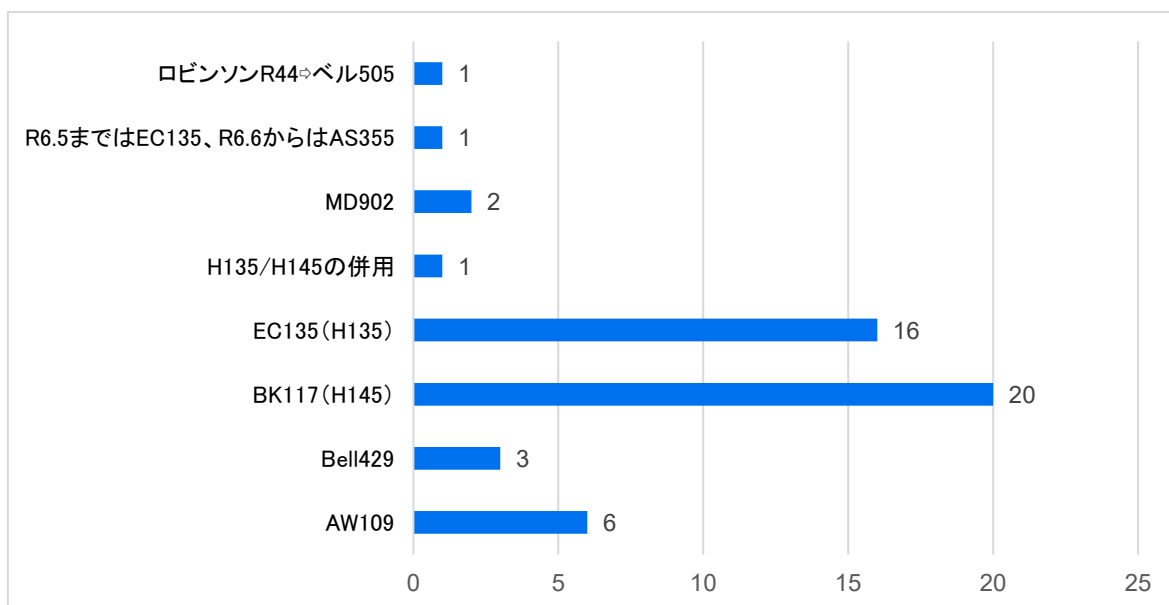
香川県立中央病院	順天堂大学医学部附属静岡病院
国立病院機構長崎医療センター	広島大学病院
宮崎大学医学部附属病院	川崎医科大学附属病院
藤田医科大学病院	富山県立中央病院
伊勢赤十字病院	社会医療法人緑泉会 米盛病院
大分大学医学部附属病院	長岡赤十字病院
山梨県立中央病院	佐久医療センター
石川県立中央病院	旭川赤十字病院
信州大学医学部附属病院	新潟大学医歯学総合病院
福井県立病院	聖隷三方原病院
福島県立医科大学付属病院	島根県立中央病院
手稲溪仁会病院	愛知医科大学病院
公立豊岡病院	市立函館病院
八戸市立市民病院	秋田赤十字病院
山形県立中央病院	君津中央病院
三重大学医学部附属病院	会津中央病院
前橋赤十字病院	大阪大学医学部附属病院
埼玉医科大学総合医療センター	高知医療センター
佐賀大学医学部附属病院	福岡和白病院
奈良県立医科大学	社会医療法人仁愛会 浦添総合病院
香川大学医学部附属病院	鹿児島県立大島病院
久留米大学病院	杏林大学医学部付属病院
はりま姫路総合医療センター	高知県・高知市病院企業団立高知医療センター
岐阜大学医学部附属病院	鹿児島市立病院
和歌山県立医科大学	長崎県病院企業団 (RIMCAS)

・アンケートの集計結果は以下の通り

・回答される方は以下のいずれでしょうか。

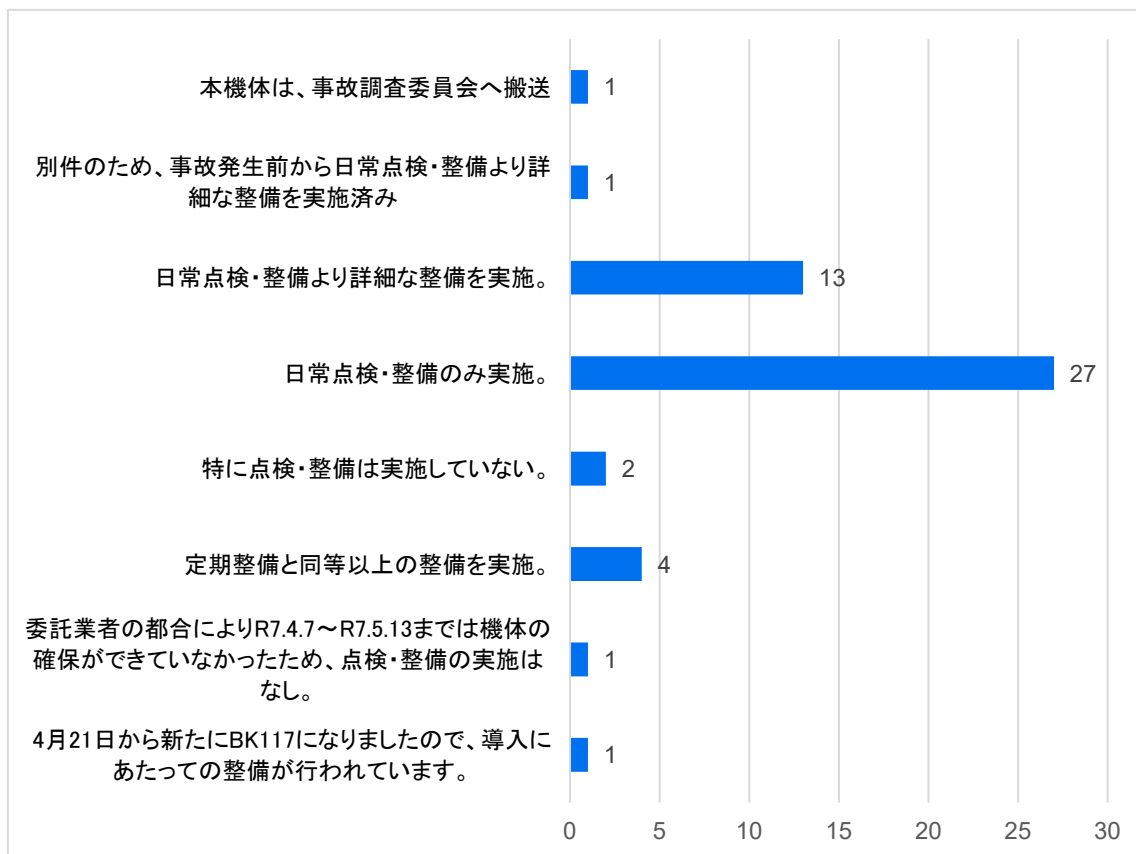


・貴地域で運用している DH の主な機種は以下のどれでしょうか。

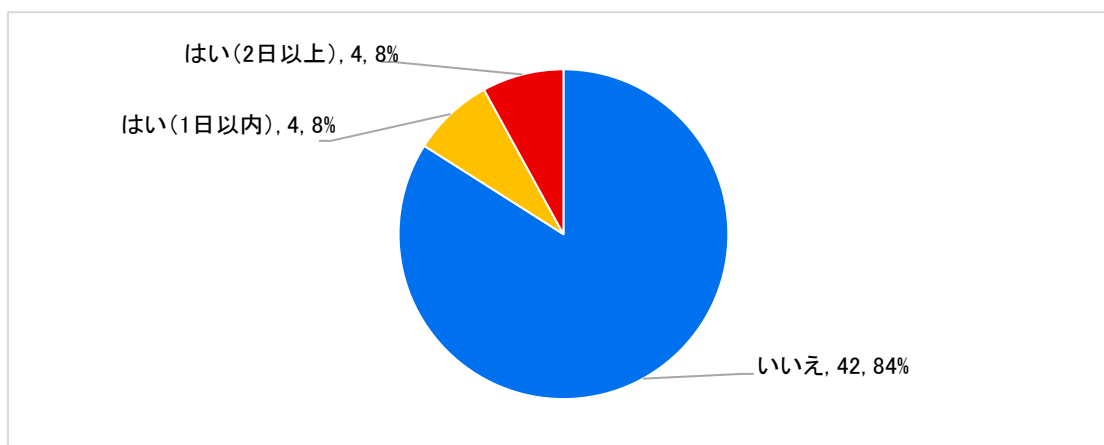


**A. 医療搬送ヘリコプター事故後の点検・整備等について(全 50 施設への質問)**

A-1. 今回の事故発生から令和7年4月25日までに実施した、貴地域 DH の点検・整備の状況をお教えてください。



A-2. 上記の点検・整備に際して、DH の運航を一時休止しましたか。



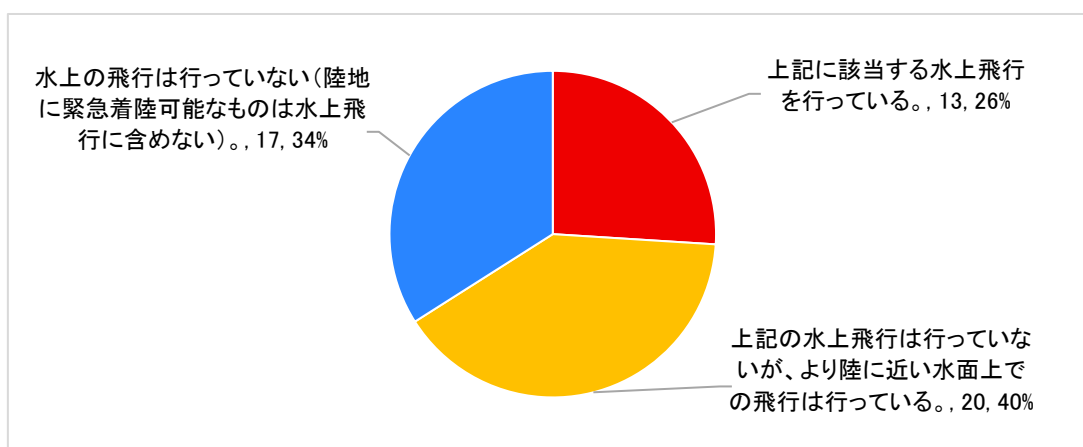
A-3. 今回の DH 点検・整備に関して課題やご意見があれば、ご記載ください。(一部抜粋)

- ・問題点が明らかにならないと対処仕様がな
- ・今回の事故原因が特定されていないので重点項目が不明
- ・航空機事故調査委員会からの具体的な報告が行われない状態での対応となったため、同型機種に限った重点点検となったため効果的な対応が難しかったかと思

## B. 水上の飛行についてお尋ねします。

B-1. 貴地域では、下記の水上飛行を行っておられますか。(全 50 施設への質問)

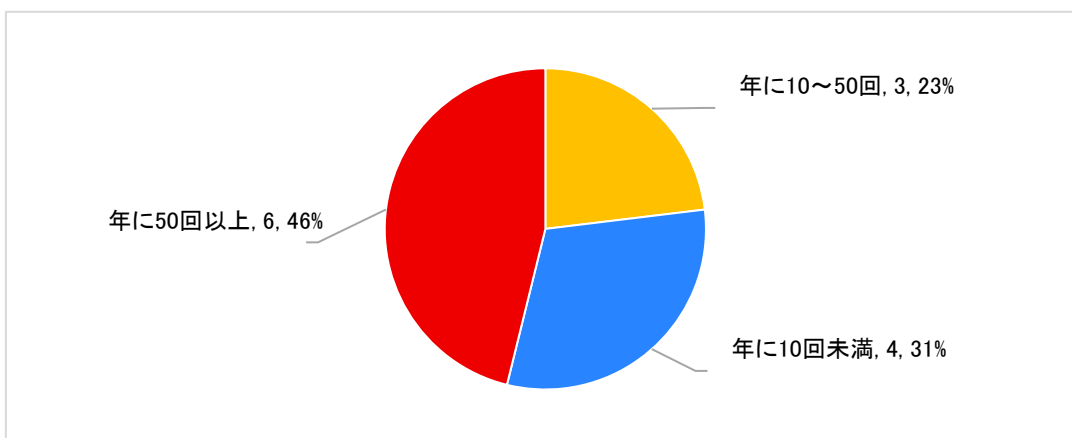
「陸地から巡航速度で 10 分以上を要する距離での水上飛行」



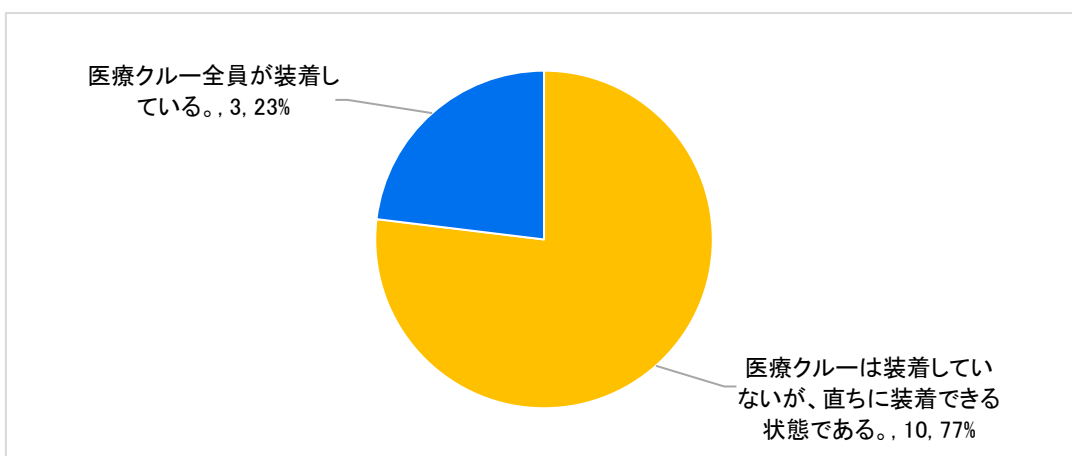
注)本質問に対する「上記に該当する水上飛行を行っている」との回答は、必ずしも「航空法施行規則第 150 条に基づき緊急用フロートの装備が必要とされる飛行」が行われていることを示すものではないことに注意されたい。「上記に該当する水上飛行を行っている」と回答した 13 施設について、各航空運航事業者に対して確認を行ったところ、航空法施行規則第 150 条に基づき緊急用フロートの装備が必要なのは 2 施設のみであった。本アンケートの質問が不明瞭であったため、解釈にばらつきが生じたものと考えられる。

---以下 4 問は、B-1 の質問に対し、「陸地から巡航速度で 10 分以上を要する距離での水上飛行」を行っている」と回答した 13 施設への質問。---

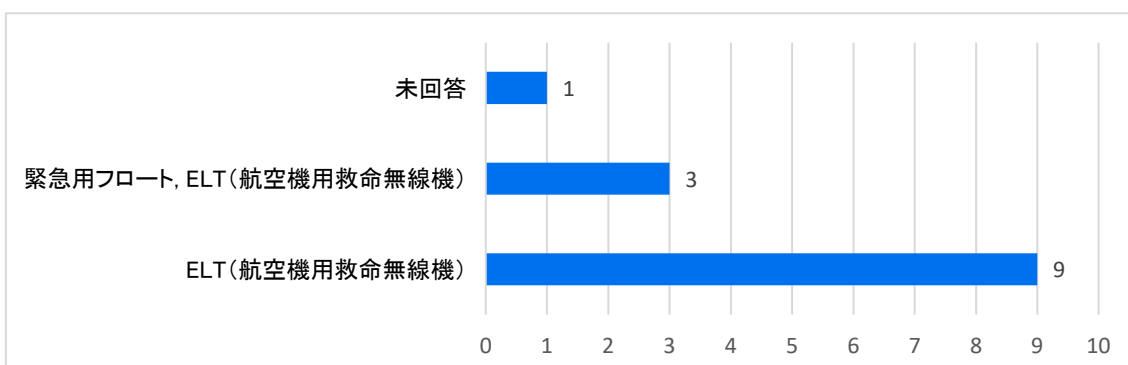
B-2a. 貴 DH は、「陸地から巡航速度で 10 分以上を要する距離での水上飛行」を含むミッションを 1 年間に概ね何回行っていますか。



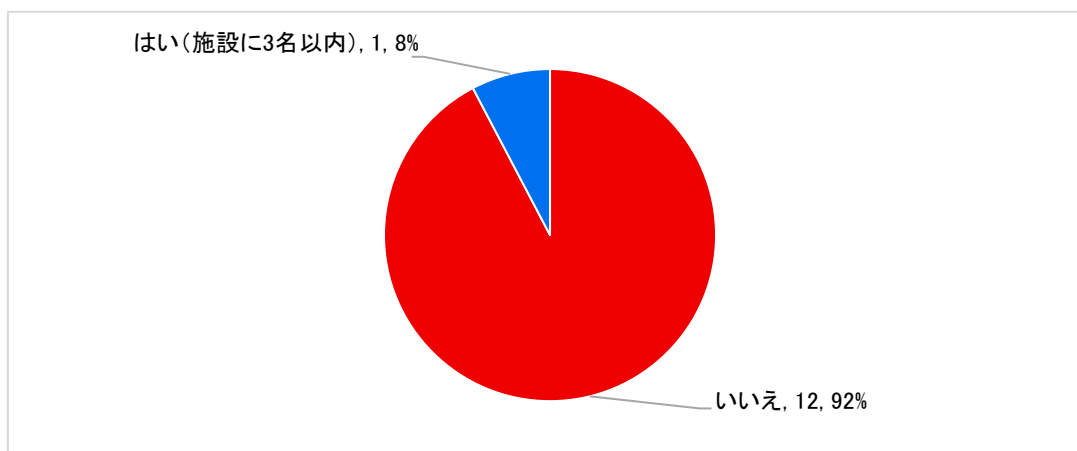
B-3a. 上記の水上飛行の際に、医療クルーは救命胴衣を装着していますか。



B-4a. 貴地域の DH が上記の水上飛行を行う際、機体に以下は装備されていますか(複数回答)

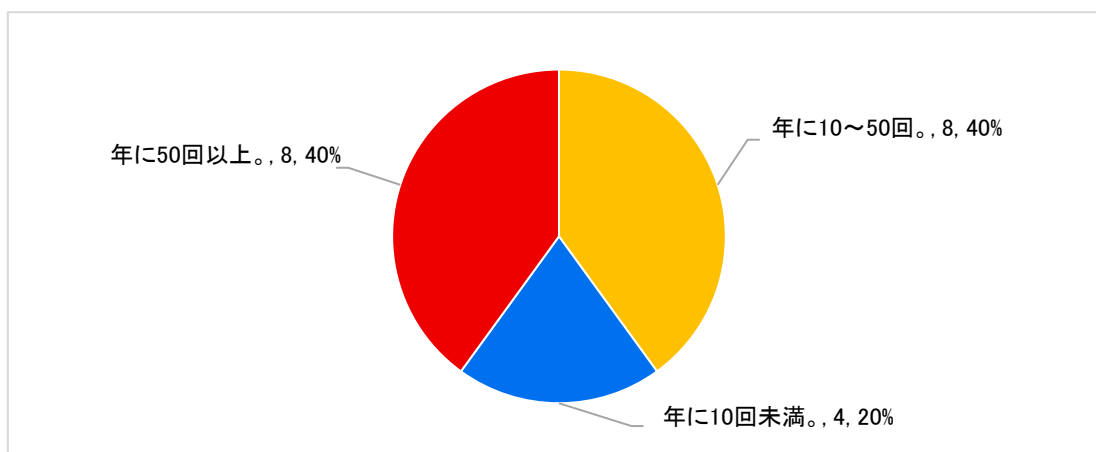


B-5. 貴施設の医療クルーのうち、これまでに水上の不時着対応訓練(ヘリコプターからの水中脱出訓練)を受けた方はおられますか

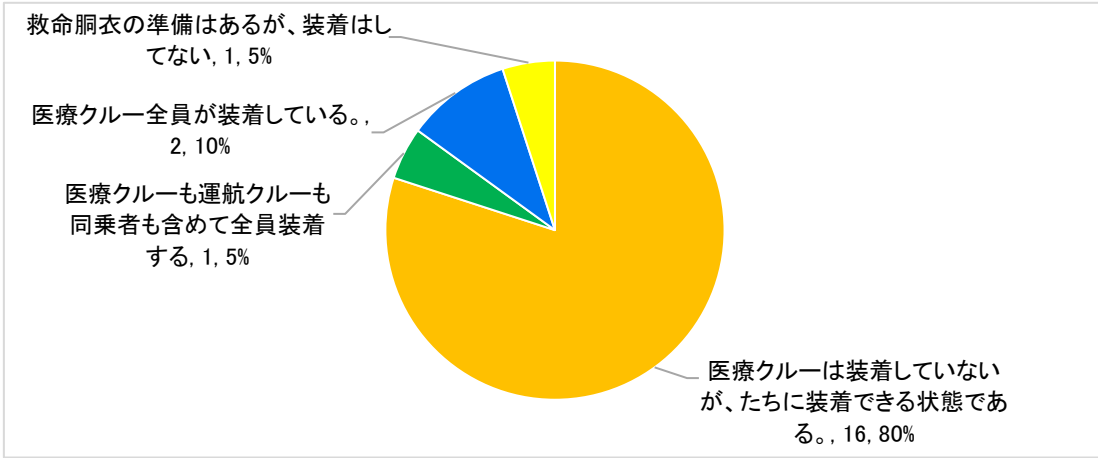


----以下 4 問は、B-1 の質問に対し、「陸地から巡航速度で 10 分以上を要する距離での水上飛行」よりも近距離の水上飛行を行っている」と回答した 20 施設への質問。----

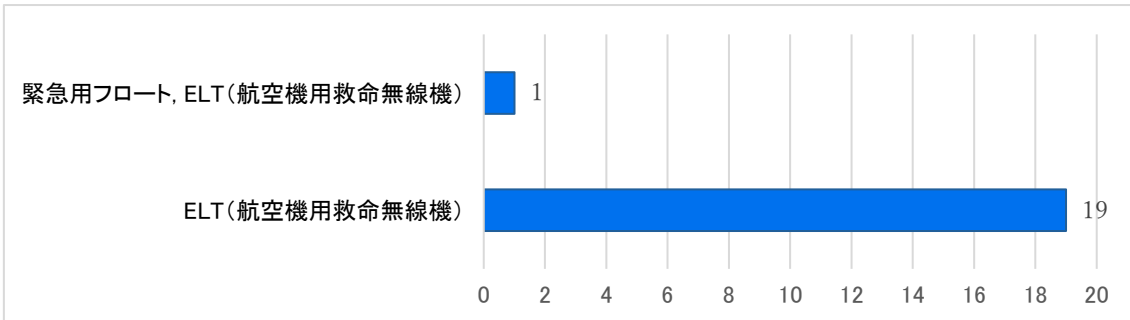
B-2b. 貴 DH は、上記の陸地から比較的近距离の水上飛行を含む出動を、年間に概ね何回行っていますか。



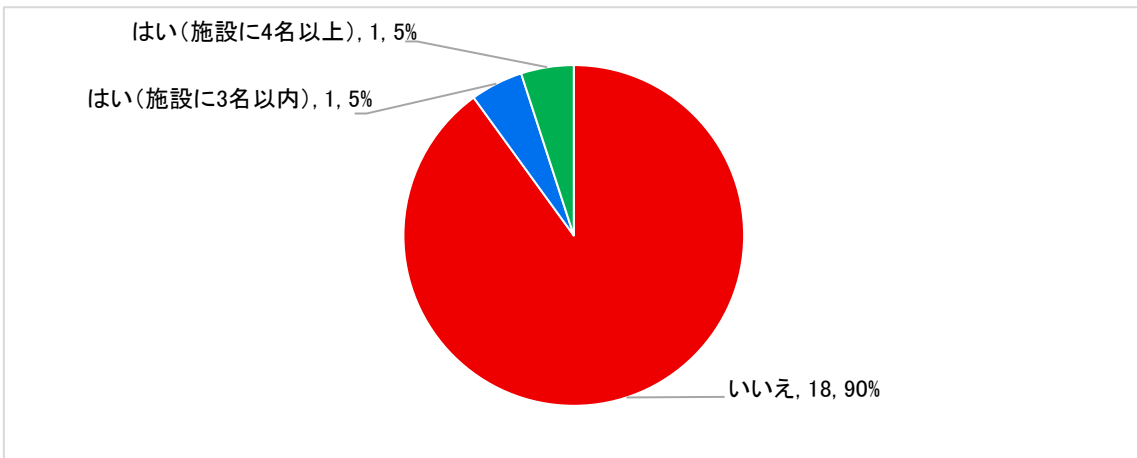
B-3b. 比較的近距離の水上飛行の際に、医療クルーは救命胴衣を装着していますか。



B-4b. 貴地域のDHが、陸地から比較的近距離の水上飛行を行う際、機体に以下は装備されていますか(複数回答)



B-5. 貴施設の医療クルーのうち、これまでに水上の不時着対応訓練(ヘリコプターからの水中脱出訓練)を受けた方はおられますか

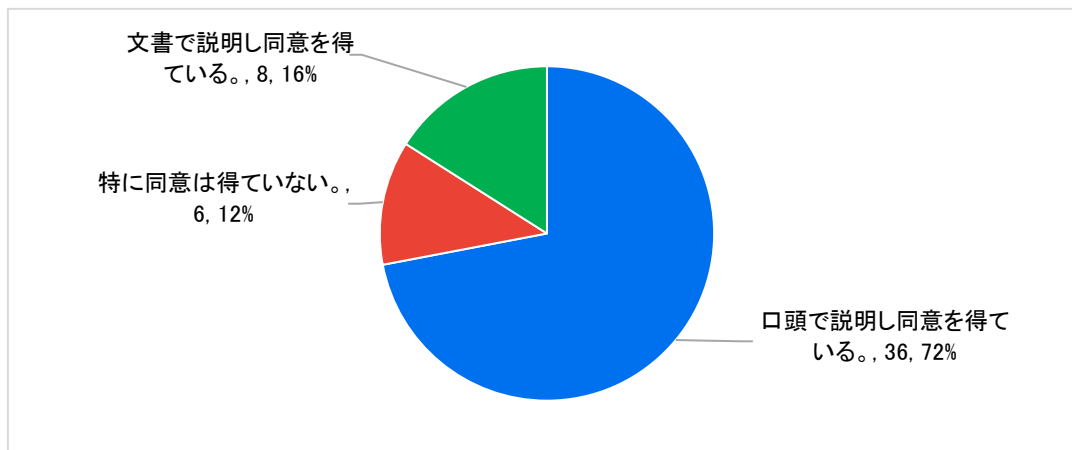


B-6. 水上の不時着対応訓練に関するご意見があればご記載ください(B-1 で水上運航を行うと回答した 33 施設に質問)

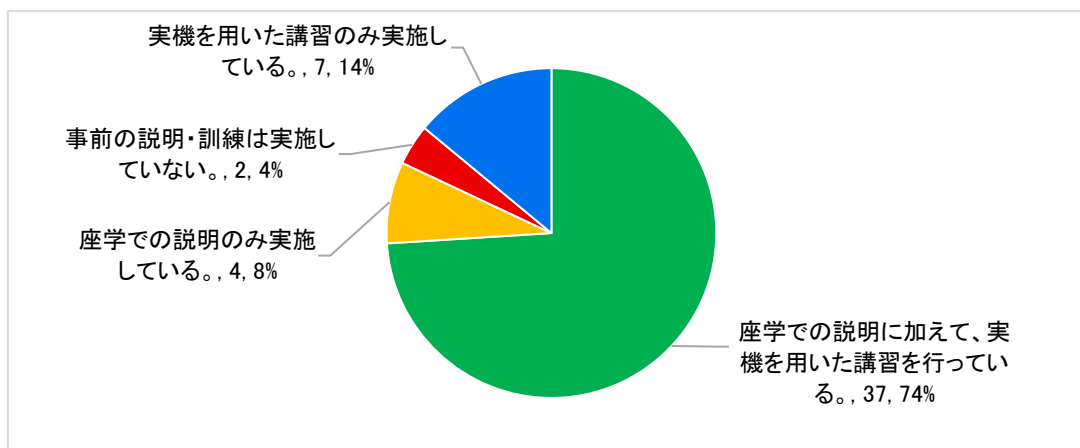
- ・今後行っていく予定です。
- ・可能なら受講してみたい
- ・学会等で水上を含め不時着時の訓練を企画すべきと考えます(安価で)
- ・今後学会のサポートを受けて、訓練に参加する予定です。引き続きサポートいただければと存じます。
- ・ビデオで良いので学会が提供してくれればありがたいです。
- ・不安を覚えるスタッフも複数名おり、脱出訓練を行いたいですが費用面で厳しいものがある。プールなどでの着衣水泳なども企画できないか調査中ではあるが費用負担とインストラクターが問題である。消防の水難救助訓練に参加し着衣水泳をさせていただけないか確認したが、困難との回答であった。
- ・日本サバイバルトレーニングセンターは当施設から距離があり、受講料や諸々の費用を勘案すると容易に受講できない状況です。受講補助金継続および近隣で開催される等の条件が揃えば、受講を検討したいと考えております。
- ・教育ビデオの類があれば有難い。
- ・プロ同等のスキルは習得できないが、緊急時の状況を体感する意味で有用であり、受講を必須とする必要がある。しかしながら、受講に係る費用が高額であり基地病院の負担が大きいのが現状である。国や都道府県および学会などからの支援や、補助金としての算定を頂く必要があると考える。
- ・受講費用及び訓練施設までの交通費等の負担、訓練参加中の勤務要員の確保  
“現在、レッチング訓練の見学について調整している。
- ・不時着対応訓練については、1回の受入人数が少なく、経費の予算化の必要性など、医療クルー全員が受けられない事が課題である。”

### C.搭乗する医療クルーについてお尋ねします。(全 50 施設に質問)

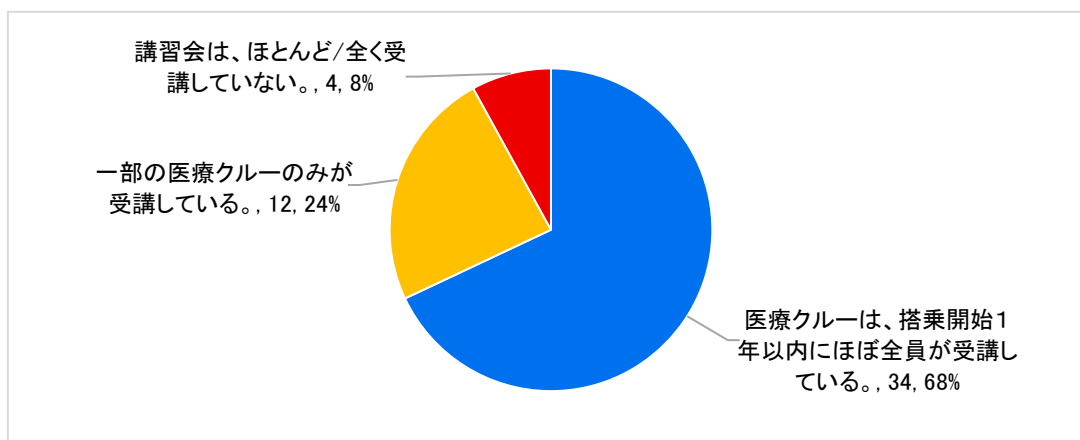
C-1. 貴施設では、DH に搭乗する医療クルー(医師・看護師など)に対して、最初に搭乗する前に、飛行のリスクについて説明のうえ同意を得ていますか。



C-2. 新たに DH に搭乗する医療クルーに対して、搭乗前に緊急時対応に関する説明・訓練を行っていますか(運航会社が実施するものも含む)。



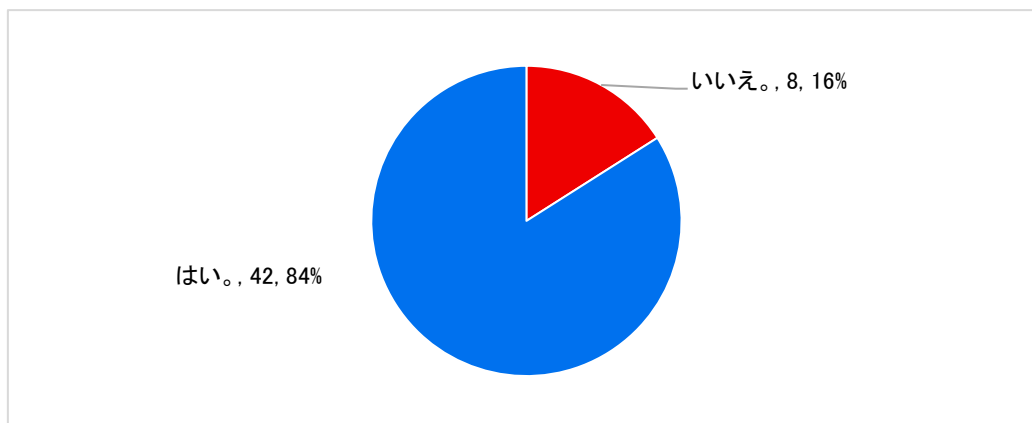
C-3. 貴施設医療クルーの日本航空医療学会の実施する講習会の受講状況は以下のどれですか。



C-4. DH の機体には、医療クルーの座席すべてにシートベルトが装着されていますか。

全施設「はい」と回答

C-5. DH のシートベルトは、全て4点式以上(ショルダーベルトあり)ですか。

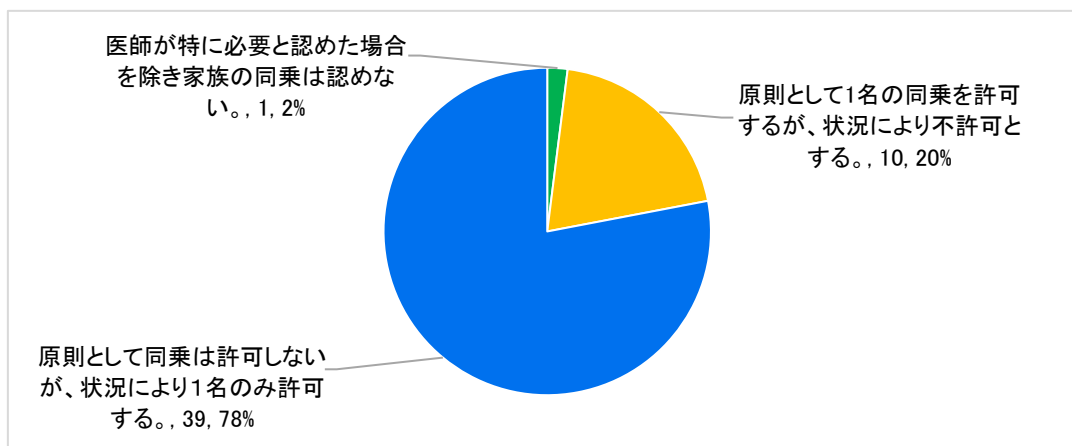


C-6. DH に搭乗中、患者の処置などのためやむを得ない場合を除き、医療クルーは常時シートベルトを着用していますか

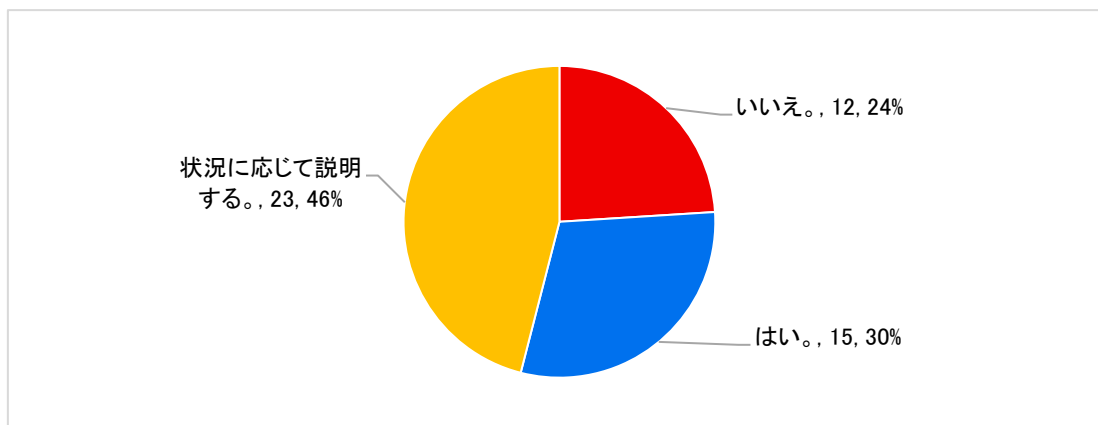
全施設「はい」と回答

## D. 関係者の同乗について(全 50 施設に質問)

D-1. DH 患者搬送時の関係者(患者家族や付添人など)の同乗については、どのように対応していますか。

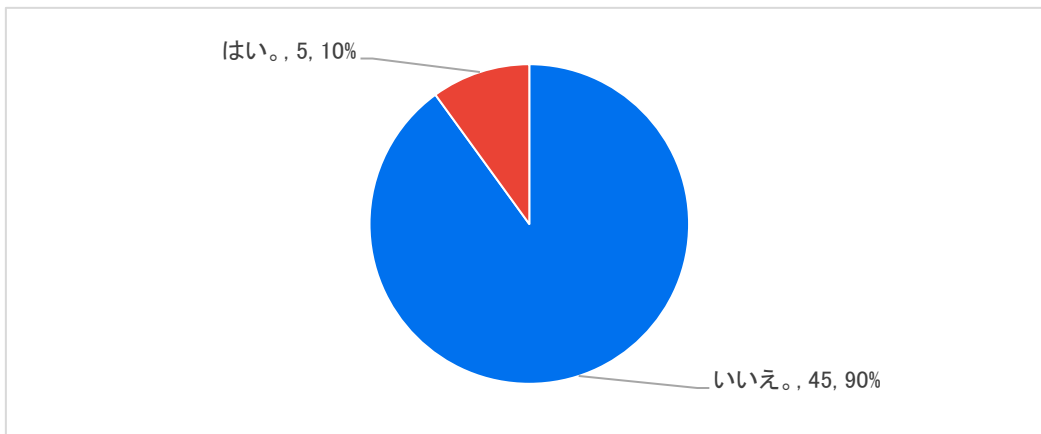


D-2. 関係者が同乗する場合、飛行に伴う航空事故のリスクに関する説明を行っていますか。

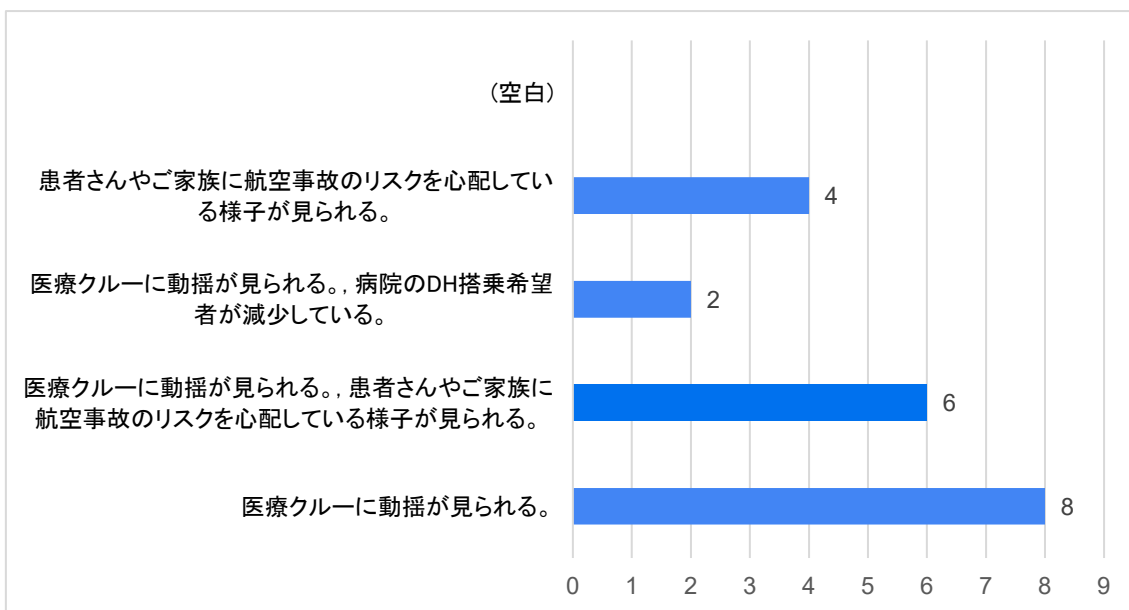


### E.その他(全 50 施設に質問)

E-1. 今回の事故の影響で、貴地域の DH は運航を停止しましたか(質問 A-2 の点検・整備のための運航停止を含む)。



E-3. 貴地域で以下の状況が見られる場合、チェックをお願いします(複数回答可)



以上